

●敍任及辭令

敍從六位 正七位  
敍從六位 正七位  
敍正七位  
敍正七位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位  
敍正八位

堤元齡  
木村茂樹  
志摩次郎  
西川義英  
山崎雅為  
山根文士  
新宗一  
柴田剛太  
橋川市太郎  
有馬雅輔  
服部堯估  
齋藤代次郎  
山崎磐

(五月三十日)

臺灣總督府醫學校教授 吉田坦藏

臺灣總督府醫學校長醫學博士堀內次雄不在中代理ヲ命ス

(五月二十一日)

陸軍一等軍醫正從五位勳三等功四級 村上彌穗若

任陸軍軍醫監

陸軍一等軍醫從六位勳五等 難波秀太郎

任陸軍三等軍醫正

陸軍二等軍醫從七位 平井重次郎

待命被仰付

陸軍軍醫監 村上彌穗若

陸軍省醫務局課員陸軍三等軍醫正 出射一郎

免本職補近衛步兵第三聯隊附

陸軍三等軍醫正 出射一郎

陸軍省醫務局御用掛ヲ命ス

仙臺衛戍病院附陸軍三等軍醫正 上山喜明

免本職補東京第一衛戍病院附

步兵第六十八聯隊附陸軍三等軍醫正 難波秀太郎

免本職補步兵第十一聯隊附

廣島衛戍病院附陸軍一等軍醫 大塚文雄

免本職補軍馬補充部六原支部附

軍馬補充部釧路支部附陸軍一等軍醫 平井重次郎

免本職補重砲兵第一聯隊附

免扶桑乘組補第三十一驅逐隊軍醫長

海軍大軍醫 佃 卓三郎

佐世保海軍病院附海軍中軍醫

栗 栖 幸 穂

免本職第二十五驅逐隊軍醫長心得被仰付

海軍少軍醫 伊 藤 慎 一

海軍軍醫學校乙種學生教程卒業ニ付學生被免

海軍少軍醫 伊 藤 慎 一

補吳海軍病院附

(六月一日)

大 岩 博 雅

黒 木 武 一

任海軍少軍醫

海軍少軍醫 大 岩 博 雅

海軍少軍醫 黒 木 武 一

海軍軍醫學校乙種學生被仰付

(六月八日)

横 川 定

任臺灣總督府醫學校教授

兼高等官五等

臺灣總督府醫學校助教兼臺灣總督府醫學校舍監從六位醫學博士

(六月十一日)

●見習醫官任命並配賦 本月一日左記の本會員諸君は見習醫官を命せられ協書の聯隊に配賦せられたり

第四師團歩兵第八聯隊 田村權五郎

第五師團歩兵第七十一聯隊 高橋 肇

第十七師團歩兵第五十四聯隊 太田 幸衛

### ●人事彙報

○金谷材吉君 は今般岡山醫學專門學校外科學講師を囑託せられたり

○前田三郎君 は今回神戸市立屯田療養所に勤務せられたり

○水谷禎二君 は今回福岡縣嘉穂郡上山田、三菱鑛業會社上山田炭坑醫局に勤務せられたり

○榊原顯孝君 は豫て一年志願兵として大阪歩兵第八聯隊に入營中なりしか其の第一、二次の勤務演習を終へ去月未退營し兵庫縣武庫郡御影町緒方醫院に勤務せられたり

○井上八重二君 は今般横濱市立万治病院を辭し徳島縣

警察部に勤務せられたり

○八木重一君 は今般松山市、日本赤十字社愛媛支部病院に勤務せられたり

○黒住久君 は豫て東京順天堂醫院泌尿科及東京醫科大學皮膚科に於て研究されつゝありしが今回大阪回生病院外科に勤務せられたり

○吉田秀雄君 は今般岡山縣病院内科を辭し姫路赤十字社支部病院内科に勤務せられたり

○小野一君 は豫て當市石本外科醫院に勤務し居られしが今般姫路市立北條病院に轉勤せられたり

○梶谷尙君 は豫て一年志願兵として第十師團に入營中なりしが去月末日退營せられ今般岡山縣病院小兒科に勤務せられたり

○渡部常藏君 は豫て廣島縣病院に勤務し居られしが今般吳市同濟病院耳鼻咽喉科に轉勤せられたり

○菅實君 は豫て九州醫科大學第三内科教室に於て研究中なりしが今般兵庫縣朝來郡三菱生野鑛山醫局に勤務せられたり

○二川元治郎君 は昨年岡山醫學專門學校卒業以來岡山

縣病院内科に勤務し居られしが今般京都醫科大學伊藤外科教室に轉せられたり

○西垣儀太郎君 は豫て公立彦根病院婦人科部長として勤務し居られしが今般其職を辭し京都府福知山職人町通に於て開業せられたり

○赤木義孝君 は一年志願兵として姫路歩兵第三十九聯隊に入營中なりしが去月末日其勤務を終へ退營せられたり

○藤澤五六君 は豫て縣立神戸病院に勤務し居られしが今般辭職神戸市日暮通五丁目に於て開業せられたり

三宅保次君逝く 君は明治三十九年岡山醫學專門學校を卒業し岡山縣病院に於て耳鼻咽喉科を研究し後日本赤十字社香川支部病院耳鼻咽喉科主任として赴任し大正五年其職を辭し高松市に於て開業し其手腕を揮ひつゝありしが近來健康を害し靜養に力められしも其效なく遂に本月二十六日遠逝せられたりと洵に哀悼の情に堪へざるなり

●岡山醫學圖書館 曩に岡山醫學會同窓會第一回大會に於て可決せる岡山醫學圖書館建築に就き同會は左記の印刷物を全國同窓生に發送せり

岡山醫學圖書館建設に就き

岡山醫學會同窓會々員諸君に告ぐ

大正七年四月十三日岡山市に於て開きし岡山醫學會同窓會創立總會の議事に附せられたる左記の議案は滿場一致を以て可決せられたり。

醫學ノ進歩ニ貢獻シ母校ノ發展ヲ翼賛シ且會員ノ學術ヲ向上スルタメ醫學圖書館ヲ建設ス

理由 醫學ノ研究ニ醫學圖書館ノ必要ナル事ハ言ヲ俟タザル所ニシテ、醫學ノ進歩セル歐米諸國ニ於テ、醫學圖書館ノ完備セルモノ少ナカラザルノ一事又以テ之ヲ證ス可シ、然ルニ本邦ニ於テハ、純然タル醫學圖書館ハ素ヨリ、其他必要ナル一般醫書ヲ藏スル圖書館サヘモ殆是ナキハ、實ニ本邦斯界ノ一大缺點ナリ。仍テ本會ハ、完備セル醫學圖書館ヲ建設シ、是カ管理ヲ岡山醫學專門學校ニ托シ、以テ醫學ノ進歩、母校ノ發展及會員研學ノ資トナサントス。

乃本會は本會の事業として本邦にて曾て企畫せられたる事なき一大醫學圖書館建設の大計畫を議決し且直に之に着手する事となれり。是本會に於て光榮ある一大事業たるのみならず又實に本邦醫界の大事業にして之を完成せしむるには本會々員の大奮發と當事者の大努力とを要する事勿論なり。仍て茲に本事業計畫に關する必要の事項を規定して本會々員諸君の之に依りて本事業に贊助せられん事を請はんとす。

#### 岡山醫學圖書館建設規定

##### 一 設立に關する件

本會の事業として計畫する醫學圖書館は左に依りて設立せしめんとす

一、岡山醫學圖書館は岡山醫學會同窓會の事業として創設し財團法人として經營するものとす

二、建設及維持に要する資金は本會々員の寄附に依るものとす

但會員外の寄附を受くるを妨げず

三、岡山醫學圖書館は其效用の普きを圖り且敷地買入費を除き維持費を減する等のため岡山醫學專門學

校構内に建設し其管理は同校に一任するものとす

二 遂行に關する件

(一)寄附金を募集し(二)書庫及閲覧室を建築し(三)圖書を購入し(四)設備を完成し且開館するまでの一切の事務は創立委員を設けて擔任せしむ。創立委員は本會理事長より囑託す可く右に關する事務中一般に關するものは東京の創立委員に於て取り扱ふ事とし其事務所は岡山醫費同窓會東京支部事務所内に置くものとす

三 經費に關する件

本事業に關する經費は設備費と維持費との二種とし甲は創立雜費、建築費、圖書費、備品費にして一時の支出とし、乙は新刊購入費及經常費にして基金を設け其利子を以て支辨するものとす。而して之に要する資金の豫算は大略左の如し

一金六萬圓

内 譯

一金貳萬圓

一金四萬圓

設 備 費

書庫及閲覧室建築、備品及創立に關する費用

圖書購入費

一金六萬圓

基 本 金

但其利子約三千圓を以て新刊購入費及經常費に充つるものとす

計金拾貳萬圓

四 資金調達に關する件

資金は左の標準方法に依り本會々員より寄附金を募集して調達するものとす

一、本會々員は一人金五拾圓以上を寄附する事

二、寄附金の拂込みは一時拂、二箇年乃至五箇年の分

納とも隨意たる事

三、寄附金申込期限は大正七年八月三十一日限りとす

四、寄附金の申込みは成る可く各地創立委員に於て取り纏むる事とし或は便宜上直接に事務所に申込み可き事

五 會計事務に關する件

金錢保管及出納に關する會計の事務は財團法人の成立するまで東京在住の創立委員中より選舉したる若干名の擔當者之を取扱ひ且毎年一回其收支決算を報告し以て金錢の保管及出納を嚴重明確にす可し

## 六 寄附者表彰に關する件

寄附者の芳名及寄附金額は岡山醫學會雜誌又は其他の印刷物に依りて發表し且湮滅せざる方法に依り之を永久に傳ふ可し

右御諒承の上十分御贊助あらんことを希望す

大正七年五月

岡山醫學同窓會

## 醫學圖書館建設の必要に就て

岡上に醫學圖書館を建設しようといふ提案は、去る四月十三日岡山市で開かれた岡山醫學同窓會總會に於て滿場一致で可決せられ、今や汎く同窓生間に於て寄附金を募集するに至つたので、主として其衝に當て居る私は、茲に聊醫學圖書館建設の必要を説いて、同窓諸君の大なる奮發を促さふと思ふ。

醫學圖書館建設の必要は、之を三つに分ちて説く事が出来る。即ち第一は本邦醫學のため、第二は岡山醫學のため、第三は我が同窓生のためであると云ふ事が出来る。

第一 本邦醫學の進歩上に於ける醫學圖書館建設

の必要

今日の國際的醫學の進歩を謀る上に於て、醫學圖書館の必要あることは、改めて論ずるまでもなく、其必要の程度は、醫學教育場及特殊研究所に少しも劣らぬものである。故に醫學の盛なる歐米諸國に於ては、醫科大學及特殊研究所の完成と共に、醫學圖書館の建設を必要として、既に完全なる醫學圖書館を設置した國も少くはない。然るに本邦にては、一般に圖書館の建設甚だ少きと共に、特殊なる醫學圖書館に至りては、未だ一箇の建設をも見ざる状態である。而も一般圖書館に於ては、日本の醫書すら完全には備はつて居らぬ位であるから、外國の醫書などは、殆ど全く備へ附けられて居らぬ有様である。最高の學府たる帝國大學の圖書館又は同大學醫科大學内の各教室には、必要な外國醫書を備へてあるが、是れとて完全のものでなく、且閱覽者は一定の人に限られて居るから、一般の篤學者及研究者の便利とはならぬ。斯くの如き有様で、今日本邦に一箇の醫學圖書館さへなきことは、斯學發達上の一大缺點であつて、此缺點を補ふことは目下本邦醫學上の最必要事である。而して我々同窓の計畫せる岡山醫學圖書館の建設は、實に此必要に應ずる

最有益な事業である。

## 第二 岡山醫覺の發展上に於ける醫學圖書館建設の必要

四月十三日の岡山醫覺同窓會總會では、滿場一致で、岡山醫科大學期成會設立の議案が可決されたが、其目的が、現今の岡山醫學專門學校を向上させて、或る時機に岡山醫科大學を出現させよと云ふに在る事は、言を俟たぬ所である。而して現今の岡山醫學專門學校を向上させて醫科大學とするには、學校の内容を改善する事の最も必要であることも言を俟たぬ所である。内容の改善とは、教授に卓絶なる人物を得る事と、學校及附屬病院の設備を完全にすることとを以て主眼とする。而して教授に卓絶なる人物を得るには、學校及病院の設備を完全にすること一つの方法であるから、後者は實に學校の内容を改善するに最も必要な條件である。然るに我が母校の設備は他の官立醫學專門學校に比して、近年稍遅れて居る傾きがあつたが、昨年來校舍及院舎の改築に着手せられ、一方には岡山の富豪山上氏の特志によりて、理學療法研究所も建設せられんとし、今や設備に於て昔日の面目を改

めんとする場合、更に他の醫學專門學校に於ては素より、帝國大學の醫科大學にても設置せられざる完全なる醫學圖書館を有するに至らば、設備上に於ては、遽に著しく完備し、後日醫科大學に昇格する上に於て、大なる便宜を得ることとなるであらふ。故に今回我が同窓會が計畫せる醫學圖書館の建設は、直接に母校の設備を完成して、そが他日の昇格に資する所あるのみならず、間接には、母校に好學の良教授を招致する助けともなり、又母校に研究講學の學風を勃興せしむる困ともなる實に有益な事業である。

## 第三 同窓の學識向上に於ける醫學圖書館建設の必要

吾人が醫學の教育を受けたる母校内に、内外の醫書を網羅したる完全なる醫學圖書館ありて、吾人の隨意に使用することを得るに至れば、或る業績研究を遂行せんとする時、又は或る知見を得んとする場合、是によりて豊富なる内外の文獻を涉獵して、如何なる知見をも求む可く、如何なる業績をも成就する事が出来るようになるであらふ。斯くて吾人の享くる利益の大なるのみならず、又吾

人の後継者も同學の士も、亦汎く且永久に其利益に均霑するを得るであらふ。

醫學圖書館の建設によりて社會に與ふる利益は、尙ほ他に幾つもあるが、以上列舉せしものは、其最も大なるものである。而して斯くの如き有益な大事業を、我同窓生の方で成し得る事は、實に我々が、天下に向つて誇るに足る可き事であつて、且我々醫を業とする者の公益事業として、最も愉快なる且氣のきいた事業であるから、我々同窓生は大なる盡力と破格の出捐とによつて、是非之を遂行したいと思ふのである。仍て私は、茲に聊醫學圖書館建設の必要を説いて、同窓諸君の大決心大奮發を請ふとするのである。

大正七年五月

山谷徳治郎述

◎山口縣柳井町通信 去る六月十二日山口縣大島、玖珂、熊毛三郡岡山醫覺同窓會を玖珂郡柳井町に開く。生憎當日は雨天なりし爲め、出席者七名に過ぎざりしも、意氣投合せる同窓の事とて、各自胸襟を吐露し、或は寄合書に興を添へ、飲むあり、歌ふあり、坐するあり、横はるあり、如何にも、和氣霽々たる會合なりき。斯くして一

日の興樂を縦にし、更深き頃、漸くに開散せり。

本會は年一回開催し、本年は宛も第七回目に相當す。會員總數二十三名を有す。

本年出席者左の如し。(到着順)

吉川 家善君 香川 貞市君 河内山政一君

妹尾雄一郎君 福井 勇太君 齋郷品之介君

岡村 儀人君

祝電を寄せられたる諸氏は

末野 包槌君 中村 吉太君 高井 禎道君